

亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会 第1回小委員会（文化資料館）議事要旨

日時：令和4年8月2日（火） 午後2時00分～4時00分

場所：亀岡市文化資料館 会議室

出席者：中西裕樹委員・加藤美智恵委員・野原通夫委員・大矢寛恵委員・安藤眞吾委員・
清水重敦委員・鶴飼均委員

欠席者：なし

○次第：委員紹介、加藤委員を委員長に選出

○検討：文化資料館についての概要説明、今後のスケジュールの確認
新資料館の機能・規模・立地などについて意見交換

◎委員による主な意見

- ・平成28年に策定された「亀岡市新資料館構想」は、博物館の機能についてはしっかり盛り込まれているので、十分、検討の元のできる構想だ。
- ・新施設は、登録博物館、公開承認施設として認定をめざすべき。
- ・新資料館構想に盛り込まれた内容に、資料のデジタル化をプラスすることが必要。
- ・デジタルへの取組は、仮想空間だけにあるものはあきらめやすい。今は、仮想と現実をどうつなぐかが大事。
- ・亀岡市文化資料館ではなく、受け入れてもらいやすい名前（愛称）は、多くの人に利用される資料館となるために有効。どういう施設にしたいかを名前がひっぱってくれる。
- ・明智光秀や円山応挙など亀岡にゆかりのある人物に特化した施設づくりも考えられる。この資料館に来れば、この人物については、すべて分かるというような。
- ・新施設に亀岡最大のお祭りである亀岡祭の山鉾本体を常設展示してはどうか。
- ・大型バスが入れるスペースが必要である。学校教育との連携の観点からと、あわせて市内外から観光の団体客を受け入れることができる。
- ・建物の外観に特徴を出しておもわず入りたくなるような施設としてはどうか。
- ・ユースミーティングの高校生の意見に同感・共感。子どもの興味は日々変化する。
- ・文化財を守る観点から、浸水しない場所に建設することが大事。
- ・市民に見せられる収蔵庫があると、文化財の保存のあり方が理解されやすい。
- ・温かみのある木造建築はどうか。